

CASBEE神戸ver.4

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2024年版 使用評価ソフト: CASBEE神戸ver.4CASBEE-SD_NC_2024_v1.22

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	日本イーライリリー(株)第3工場棟建設PJ	階数	地上3F
建設地	神戸市西区高塚台四丁目3番3	構造	S造
用途地域	工業専用区域、法第22条指定地区	平均居住人員	40人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,640時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2028年1月 予定	評価の実施日	2026年5月7日
敷地面積	23,000㎡	作成者	吉田美穂
建築面積	2,182㎡	確認日	
延床面積	11,738㎡	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.6

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ホールライフカーボン (温暖化影響チャート)

標準計算
 ①参照値 100%
 ②建築物の取組み 89%
 ③上記+②以外の 89%
 ④上記+ 89%

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 2.4

Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.8

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.1

LR 環境負荷低減性

LRのスコア = 2.9

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 2.5

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.4

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 CASBEE神戸の重要項目		
バリアフリー計画 Q-2/1.1.3 バリアフリー計画 0.0	建築物の耐震性等 Q-2/2.1 耐震・免震・制震・制振 3.0 Q-2/2.4 信頼性 3.2	まちなみ・景観への配慮 Q-3/2. まちなみ・景観への配慮 3.0
配慮の概要	配慮の概要 熱源種(電気・ガス)の分散化、地震時の部分的被害による全体機能停止を防止する対策(吊配管)等配慮している。	配慮の概要
その他の配慮事項		

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ホールライフカーボン(WLC)」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の温室効果ガス排出量のこと。ここでは、建築物の寿命年数で除した年間温室効果ガス排出量で表示。
 ■評価対象のWLC排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質								2.4
Q1 室内環境								
1 音環境								
1.1 室内騒音レベル								
1.2 遮音								
1 開口部遮音性能								
2 界壁遮音性能								
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)								
4 界床遮音性能(重量衝撃源)								
1.3 吸音								
2 温熱環境								
2.1 室温制御								
1 室温								
2 外皮性能								
3 ゾーン別制御性								
2.2 湿度制御								
2.3 空調方式								
3 光・視環境								
3.1 昼光利用								
1 昼光率								
2 方位別開口								
3 昼光利用設備								
3.2 グレア対策								
1 昼光制御								
3.3 照度								
3.4 照明制御								
4 空気質環境								
4.1 発生源対策								
1 化学汚染物質								
4.2 換気								
1 換気量								
2 自然換気性能								
3 取り入れ外気への配慮								
4.3 運用管理								
1 CO ₂ の監視								
2 喫煙の制御								
Q2 サービス性能								2.8
1 機能性		1.5	0.40					1.5
1.1 機能性・使いやすさ								
1 広さ・収納性								
2 高度情報通信設備対応								
3 バリアフリー計画								
1.2 心理性・快適性		1.0	0.50					
1 広さ感・景観								
2 リフレッシュスペース								
3 内装計画		1.0	1.00					
1.3 維持管理		2.0	0.50					
1 維持管理に配慮した設計		2.0	0.50					
2 維持管理用機能の確保		2.0	0.50					
2 耐用性・信頼性		3.1	0.30					3.1
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50					
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80					
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20					
2.2 部品・部材の耐用年数		3.2	0.30					
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20					
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.20					
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	耐用年数の長い内装仕上げ材を使用	5.0	0.10					
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10					
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	耐用年数の長い配管材を使用	4.0	0.20					
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20					
2.4 信頼性		3.2	0.20					
1 空調・換気設備	熱源の分散化、吊配管による被害軽減等	5.0	0.20					
2 給排水・衛生設備		2.0	0.20					
3 電気設備		3.0	0.20					
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20					
5 通信・情報設備		3.0	0.20					

3 対応性・更新性			4.3	0.30	-	-	4.3
3.1 空間のゆとり			4.6	0.30	-	-	
1 階高のゆとり	階高:3.9m以上	5.0	0.60	-	-	-	
2 空間の形状・自由さ	空間の自由さを確保し将来の用途変更にも考慮	4.0	0.40	-	-	-	
3.2 荷重のゆとり	設計床荷重:4,500N/m ² 以上	5.0	0.30	-	-	-	
3.3 設備の更新性		3.6	0.40	-	-	-	
1 空調配管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	-	
2 給排水管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	-	
3 電気配線の更新性	仕上材、構造部を痛めず更新が可能	5.0	0.10	-	-	-	
4 通信配線の更新性	仕上材、構造部を痛めず更新が可能	5.0	0.10	-	-	-	
5 設備機器の更新性	-	3.0	0.20	-	-	-	
6 バックアップスペースの確保	バックアップ設備スペースの計画有	4.0	0.20	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)		-	0.57	-	-	-	2.1
1 生物環境の保全と創出	-	1.0	0.30	-	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮	公共区間からほとんど見えない	3.0	0.40	-	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮		2.0	0.30	-	-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	-	2.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上	-	2.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性		-	0.40	-	-	-	2.9
LR1 エネルギー		-	0.40	-	-	-	2.5
1 建物外皮の熱負荷抑制	-	-	-	-	-	-	-
2 自然エネルギー利用(直接利用)	-	3.0	0.13	-	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		2.4	0.63	-	-	-	2.4
集合住宅以外の評価		2.4	-	-	-	-	
集合住宅の評価		-	-	-	-	-	
4 効率的運用に向けた取組み		2.6	0.25	-	-	-	2.6
集合住宅以外の評価		2.6	1.00	-	-	-	
4.1 モニタリング	-	3.0	0.40	-	-	-	
4.2 運用管理体制	-	2.0	0.40	-	-	-	
4.3 非化石エネルギーの導入の拡大	-	3.0	0.10	-	-	-	
4.4 コミュニケーションの推進	-	3.0	0.10	-	-	-	
集合住宅の評価		-	-	-	-	-	
4.1 モニタリング	-	-	-	-	-	-	
4.2 運用管理体制	-	-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル		-	0.30	-	-	-	3.4
1 水資源保護		3.4	0.20	-	-	-	3.4
1.1 節水	給水器具の過半に節水機能のあるものを採用	4.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無	-	3.0	0.70	-	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無	-	3.0	0.30	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減		3.5	0.60	-	-	-	3.5
2.1 材料使用量の削減	ハイベースNEO工法、フェローデッキ、JFデッキ等を採用	4.0	0.11	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用	-	3.0	0.22	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.22	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.22	-	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材	-	-	-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	LGS工法、OAフロアの採用	5.0	0.22	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避		3.0	0.20	-	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-	3.0	0.30	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避		3.0	0.70	-	-	-	
1 消火剤	-	-	-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)	-	3.0	0.50	-	-	-	
3 冷媒	-	3.0	0.50	-	-	-	
LR3 敷地外環境		-	0.30	-	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮	高効率な設備機器の採用によるCO2の削減	3.4	0.33	-	-	-	3.4
2 地域環境への配慮		2.9	0.33	-	-	-	2.9
2.1 大気汚染防止	-	3.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善	-	3.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制		2.7	0.25	-	-	-	
1 雨水排水負荷低減	-	3.0	0.25	-	-	-	
2 汚水処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	-	
3 交通負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制	-	2.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮		3.0	0.33	-	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	-	
1 騒音	-	3.0	1.00	-	-	-	
2 振動	-	-	-	-	-	-	
3 悪臭	-	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制		3.0	0.40	-	-	-	
1 風害の抑制	-	3.0	0.70	-	-	-	
2 砂塵の抑制	-	-	-	-	-	-	
3 日照障害の抑制	-	3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制		3.0	0.20	-	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	-	3.0	0.70	-	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-	3.0	0.30	-	-	-	